

令和5年度 珠洲市立宝立小中学校 学校評価重点目標



【本校の教育目標】

ふるさと宝立の自然や人に学び、たくましく生き抜く子の育成

◇めざす児童生徒像

・たしかな学力を身に付けた子（知育） ・思いやりがあり心豊かな子（徳育） ・健康・安全を育み、守る子（体育・食育）

◇本校の重点目標

『自律的な学習者の育成』

本年度の努力事項	本年度の重点事項	担当（主◎）	具体的な方策	達成度判断基準の指標	判定基準
【確かな学力を身に付けた子の育成】 ◇9年間を見通した学習指導の充実 ◇学んだ知識を活用し、自ら考え、行動できる見方・考え方をもちた児童・生徒の育成 ◇学ぶ意欲の育成（7つのポイント） ◇自主的・計画的な家庭学習の習慣化 ◇学びのアップデート（一人一台端末の活用）	◎学ぶ意欲の育成 ◎自主的・計画的な家庭学習の習慣化	・研究主任 （◎奥成，野口） ・教務主任 （瀬戸，坂瀬）	①学ぶ喜びや達成感の構成要素に着目した「わかる授業」を実践する。 ②児童・生徒と共に本時の「課題」を作り、ねらいやゴールを明確にし、見通しの持てる授業を実践する。 ③体験学習，グループ討議，グループワーク等を取り入れ，能動的な学習の充実を図る ④「けてぶれ」学習の定着を図り，自律的な学習ができるよう支援し，その実現を目指す。 ⑤ICT端末を効果的に活用できる家庭学習課題を提供し，確実に取り組ませ，個別最適な学びの推進を図る。	児生徒ア 1～7 保ア 7 教ア I-1～3, 7～9	【児童生徒アンケート】 ◆前期 A（4＋3：85%以上） B（4＋3：70%以上） C（それ以下） ◆中期 A（4＋3：85%以上） B（4＋3：70%以上） C（それ以下） ◆後期 A（4＋3：80%以上） B（4＋3：70%以上） C（それ以下） 【保護者アンケート】 A（4＋3：85%以上） B（4＋3：70%以上） C（それ以下） 【教職員アンケート】 A（4＋3：85%以上） B（4＋3：70%以上） C（それ以下）
【思いやりがあり心豊かな子の育成】 ◇自己管理能力，自らコントロールする力の育成 ◇キャリア教育の充実 ◇いじめのない，安心して楽しく過ごせる学級づくりの推進 ◇道徳性を養い実践力を高める道徳授業 ◇特別支援教育の充実（＝誰一人取り残さない教育：SDGsの包摂性） ◇スクールカウンセラーや各種諸機関と連携した教育相談体制の充実	◎自己管理能力，自らコントロールする力の育成	・教務主任 （◎坂瀬，瀬戸） ・生徒指導 （花木，小林） ・道徳教育推進教師 （花木，小林） ・特別支援教育 （菅）	①児童・生徒と教職員間で「あいどる」＋下足を徹底する。 ②15分間の自問清掃を通して，5つの心が育つように指導・実践する。 ③自己管理能力，課題対応能力，キャリアプランニング能力を育成するために，体験活動等に取り組む。 また，キャリアパスポートも有効活用する。 ④行事等の体験的な学習を生かして，生きて働く道徳性を育む道徳授業を実践する。	児生徒ア 10, 12, 13 19, 22 保ア 2 教ア II-1～4, 6, 10	
【健康・安全を育み守る子の育成】 ◇体力向上の取組の充実 ◇望ましい生活習慣・食習慣の確立 ◇安全教育・防災教育の推進	◎望ましい生活習慣・食習慣の確立	・保健教育（◎小島） ・食育担当（◎坂） ・体育担当 （瀬戸，八木） ・教頭	①児童・生徒の健全な成長の促進を図るために，9年間でそれぞれの発達段階に応じた指導を適切に行う。 ②学校行事と授業を関連させ，年間を通して体力向上を図る。 ③家庭と連携した「たからっ子わが家の約束」や「学習チャレンジ週間」等の取組や学校全体（学級指導，給食等）を通して，自律した生活習慣や望ましい食習慣の確立に取り組む。	児生徒ア 11, 17, 18, 20 保ア 4 教ア III-1～3	
【魅力ある学校づくりの推進】 ◇宝立小中一貫校ブランドの構築 ◇学びを実感できる児童・生徒会活動の創造 ◇「ふるさと珠洲科」を核とした教科横断的なカリキュラムの実践 ◇開かれた学校づくりの推進（授業公開の日常化・情報の共有） ◇郷土の伝統・文化・人材の積極的な活用と地域の各種行事への参加 ◇プロ意識と使命感をもち，信頼される教師集団	◎学びを実感できる児童・生徒会活動の創造	・児童生徒会担当 （◎小林，花木・野口） ・教務主任 （坂瀬，瀬戸） ・総合的な学習の時間 （鹿野，野口，小林） ・教頭	①「話し合い活動（討議と決定）」と「振り返り活動（自己評価）」に計画的に取り組ませ，自治活動のより一層の充実を図り，自主性や自治能力を育成する。 ②リーダーの育成と児童・生徒の諸活動に対する意欲を高めるために，児童・生徒主導の集会を開催する。 ③児童・生徒会活動を通して異学年との交流する場を設定する。 ④様々な活動において，「目的」「対象」「方法」を押さえながら，B（ビフォー）とA（アフター）の指導の充実を図る。	児生徒ア 21 保ア 8, 9, 11 教ア II - 5 IV-1～3, 9	

各項目のC評価については指導・改善